

2008 年度

科目名 <p style="text-align: center;">カウンセリング実習</p>	対象学科・学年 人間人社 4 回生	担当者 <p style="text-align: center;">田沢 晶子</p>
授業テーマ 実践的な学習活動を通して、カウンセリングの実際を学び、カウンセリング技能の向上を目指します。		
授業の概要と目標 不登校や引きこもり状態などの心理的問題を抱えた生徒に対して、相談、対話、遊びを通して心理的な支援を行いません。事前指導としてカウンセリングの理論と実際、記録の書き方や守秘義務などの必要事項を確認します。児童と接する際は毎回記録をとり、スーパーヴァイザーの管理のもとで、学生が児童に適切な援助を行えるよう指導します。実習終了後にはこの記録をまとめて報告書を作成します。これらを通してカウンセリングの実際を学び、カウンセリング技能の向上を目指します。		
評価方法 事前・事後指導時の出席及び受講態度、実習先での児童へのかかわり方、記録のまとめ方、スーパーヴィジョン時の姿勢などから総合的に評価します。		
テキスト 適時資料を配布します。	著者	出版社
参考書	著者	出版社
授業スケジュール・内容 1. 事前指導 カウンセリング・プロセスの復習 2. 事前指導 記録の書き方（秘密の保持、倫理的問題を含む） 3. 事前指導 実習の心がまえ（児童との接し方、児童の親との接し方など） 4. 事前指導 スーパーヴィジョンとは 5. 実習 【対象】……不登校、引きこもり状態などの心理的問題を認め、家庭と学校の両者から援助の希望があった生徒 【実習先】……学校または適応指導教室など 【期間】……約3ヶ月から6ヶ月間程度、週1回、1回3～5時間程度とする 【実習内容】…対象児童に対して相談、対話、遊びを通して心理的援助を行う。学生は実習先での記録を毎回とり、大学へ持ち帰る。学生が子どもと会った後は、毎回担当教員がスーパーヴィジョンを行い、児童に対し適切な援助が行われているかを監督する 6. 事後指導 1回ごとの記録をもとに全体をまとめる 7. 事後指導 ケースから気付いた点、反省点、改善点などを考える 8. 事後指導 ケースの流れや背景について検討する 9. 事後指導 まとめと報告書の作成 【受講の条件】 ・1回生担当の「心理学 A」「心理学 B」、2回生担当の「カウンセリング論」、「カウンセリング論Ⅱ」、3回生担当の「カウンセリング演習」を履修済みであること。もしくはこれらの科目を同時に履修していること。 ・人数を確認するため、必ず第1回目の授業に必ず出席してください。この授業で「カウンセリング実習希望理由書」の提出を求めます。理由書を提出した者に限り登録を許可します。		